



自然の解説者

夏月号 [第44号] 2014年7月7日

NPO 法人
ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒375-0011
藤岡市岡之郷 1179-3 櫻井昭寛 方
電話・Fax 0274-42-2726
http://inpuri.web.fc2.com/
編集：総務企画部会

公開講演会「雑草のくらしから自然を見る」

平成26年4月20日群馬県生涯学習センターで開催した当協会主催の講演会の資料要約

講師 NPO 法人自然観察大学名誉学長 岩瀬 徹 氏

講師は雑草を中心とした身近な植物の生活を通して自然を観察する方法を研究し、それを広めてきました。いまも活発なフィールドワークを続けています。講演では雑草についてわかりやすく実例を挙げて話して頂き、質問にも丁寧に答えて頂きました。

雑草のイメージ

雑草は役に立たない邪魔者というイメージが強いが、もともと「雑草」は多様性を意味していて決して悪い意味はない。

雑草と野草

雑草は人間が培った草で、作物の進化とともに雑草も進化してきた。この進化はいまも休みなく続いている。野草は小回りが利かず環境の急激な変化に応じきれないため要保護種や絶滅危惧種となる。

雑草は緑の修復者

雑草は人間の自然破壊の傷口を緑の衣で隠してくれている。世界を見渡すと砂漠にならない日本の自然環境はありがたいし、雑草が生えてくるのはありがたい。

雑草から自然を見る

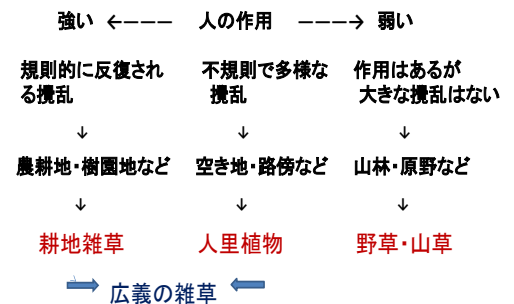
雑草の名前だけでなく生活史や生活型の見方をすると環境との関連が見えてくる。雑草群落の観察から遷移の初期段階を実感できる。それが自然を見る目に拡大する。

雑草・野草と良い付き合いを

雑草も野草も自然の一員であり生物多様性を担っている。雑草や野草との良い付き合いのためには相手のことをよく知る必要がある。そのため観察や研究が必要である。雑草・野草に遠慮してもらわねばならないこと、人が一步下がるべきことがある。



雑草・人里植物・野草の関係



種名を言うだけでは自然体験の指導にならない

顧問 亀井 健一

子どもたちを対象とした自然観察会に解説者として参加したときの事です。元気のよい子から「この花は何といますか」「あの花は何ですか」などと次々と質問が出ました。聞かれると、つい質問の勢いに押されて、植物名をすぐ答えてしまいました。こんなやりとりで瞬間に所定の時間が過ぎてしまいました。質問には大方応えられたし、子どもたちは楽しく過ごしたようなので、一応満足できる観察会になったと思いましたが、後になってこれでいいのかと考え込んでしまいました。

植物名をすぐ答えることが、本当の指導になるのだろうか。子どもたちは、深く考えないので、名前を聞けばそれで満足してしまいます。大事なことはその先にあるのに、思考の広がりや止められているように思えます。その植物がどんな工夫をして生きているのか、どんな繁殖をするのかなど、自然の巧みさに話題を広げる必要があります。解説者も植物などの種名を説明すれば、目標が達成されたと思いがちですが、種名を言っただけでは、自然体験指導の入り口に立っただけです。子どもたちの思考が広がり深まるように、種名にとらわれない指導の仕方を工夫することが大切です。

ほんの一例ですが、五感を使って観察し体験的に理解する、ヒントを与えた上で質問し、気づいたことや考えたことについて子どもたちの発言を促す、班毎に観察対象を指定し、特徴を表わす仮の名をつけ、つけた理由を班毎に発表するなどの方法が考えられます。



<活動報告>**平成 26 年度自然の解説者養成講座開講式** 4月13日(日) 前橋市第2コミュニティセンター

平成 26 年度自然の解説者養成講座では 29 名の参加申込みがあり、(総務企画部会、普及部会)
 申込者全員が参加して開講式を行いました。関端副理事長の挨拶の後、来賓としてご出席いただいた県環境森林部緑
 化推進課の曲沢修次長よりご祝辞をいただきました。(櫻井)

第 12 回通常総会 4月20日(日) 県生涯学習センター (総務企画部会)

協会員 99 名が参加(うち委任状 26 名)して通常総会を開催しました。亀井理事長の
 挨拶に続いて、来賓の県環境森林部緑化推進課半藤和之課長よりご祝辞をいただきま
 した。平成 25 年度事業並びに平成 26 年度事業案は原案どおり全会一致で承認決定さ
 れました。役員改選に伴い、関端孝雄理事長が選出されました。(櫻井)

講演会「雑草の暮らしから自然をみる」 会員資質向上研修 1 4月20日(日)
 県生涯学習センター (総務企画部会)

通常総会のあと協会員 51 名一般 7 名が参加して、NPO 法人自然観察大学名誉学長の岩瀬徹先生による公開講演会を
 行いました。テーマは「雑草の暮らしから自然を見る」で目からうろこが落ちるような興味深い講演でした。雑草は
 人間社会にとってやっかいもので邪魔な草というイメージがありますが、生物の多様性や進化を支える大切な役割を
 担っていることを教えられました。(登坂)

室沢交流の森(インプリの森)整備 (インプリの森部会)

4月26日(土) 16名参加 安全祈願祭を行い新年度初整備、5月10日(土) 11名参加、24日(土) 11名参加、
 6月14日(土) 11名参加、28日(土) 雨天のため中止 (吉本)

王城山の自然観察とカタクリ群落巡り 会員資質向上研修 2 4月28日(月) (総務企画部会)

協会員 20 名が参加し、浦野安孫さんの解説で実施しました。王城山里宮に参拝し、宮前の紙垂の言われやこの地の
 歴史、樹齢 450 年の神杉や愛くるしい道祖神など、古人への思いを馳せるものがありました。山頂に向かう途中では
 見逃してしまうような道標に立ち止り「やまみち」とある方向を目指し、芽吹き始めたイヌブ
 ナの緑を愛で、チョウジザクラ、カスミザクラ、オオヤマザクラの花を楽しみました。奥宮山
 頂では鎌の神事が今に伝えられているとの事で、石蓋を取り奉納された鎌を見せて頂きました。
 帰り間際の林床にカタクリやアズマイチゲが広範囲に群生し、可憐なアマナが味わいを醸し出
 していました。(大谷)

**敷島公園まつり** 4月29日(火・祝日) 敷島公園 (受託協力部会)

晴れのち曇り、レジャー日和の敷島公園で、協会員 17 名が参加しました。記事と写
 真を頼まれていたので、幟旗が入るアングルで撮ろうと後ろ歩きでテントを離れてみ
 ると、クラフトを指導している協会員が見えないほどの賑わいで、担当ブースもたち
 まち行列ができてしまいます！心がけている「何番目の来場者にも同じテンションで
 変わらぬ笑顔でも、うっかり怪しくなりそうなほど、いつまで経っても来場者の勢
 いが止まりません。クラフト材料も底を尽き、募金は 52,743 円で、過去最高金額に
 なりました。(大澤)

**ネイチャーゲーム研修会** 会員資質向上研修 3 5月16日(土) (総務企画部会)

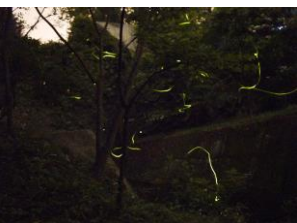
講師に小崎昭一氏を迎え協会員 17 名が参加してネイチャーゲームについての講習
 会を行いました。指導者は自然について教えるのではなく、ゲームを楽しみつつ子供
 たち自らが気づき、それを仲間と分かち合えるようにすること。またノーズ、フィー
 ルドビンゴなどいくつかのネイチャーゲームを実際に体験しました。(住谷)

**サンデンフォレスト見学会** 会員資質向上研修 4 6月13日(金) (総務企画部会)

協会員 31 名が参加。10 時～15 時まで盛りだくさんの研修をしました。サンデンフ
 ァシリティの岡田事業部長より会社案内とりわけ近自然工法により開発された 21 世紀
 型「環境共存型工場」の理念等について詳しい説明を受けた後、自販機ミュージアム、
 製品組み立て工場を見学。午後は(株)群馬野生動物事務所の春山明子氏からサンデンフ
 オレストの森の野生動物について学習の後、場内の森の自然観察会を行いました。昼食
 は会社のご厚意により大変おいしい「社食」を体験させていただきました。(大松)

**ホテル観察会** 会員資質向上研修 5 6月20日(金) (総務企画部会)

通算 3 回目となるホテルの観察会がサンデンフォレストの森において協会員 17 名、家族、友人 17 名計 34 名が参加
 して行われました。森の教室において櫻井事務局長からホテルの基礎知識を学んだ後、西
 ビオトープに移動。今回の観察対象は堰堤の下流に住むゲンジホテル。6 月初旬から飛び
 始め今が最盛期とのことで、飛び交う幽玄ともいえる光景に暫し見とれ感動しきりでした。
 工場建設後の H14 年にホテルの餌のカワニナと幼虫を放流して以後 H18 年から毎年発生し、
 放流の無かった東ビオトープでも最近はこちらほら見られるようになったとのこと。夜間設
 営して下さったサンデンファシリティの皆さんに感謝申し上げます。(大松)



＜協会活動のトピック＞

- ★4月20日第12回通常総会が開催され、任期満了に伴い役員改選を行いました。新役員と組織体制は次の通りです。
 理事長：関端 孝雄、 総務企画部会 総務担当理事：櫻井 昭寛、 企画担当理事：宇多川 紘
 普及部会担当理事：住谷 収、 受託協力部会担当理事：吉田 幸一、 インプリの森部会担当理事：吉本 一夫
- ★顧問の大松稔氏は、春の叙勲において長年の功績により瑞宝小綬章を受章されました。
- ★浦野安孫氏は、ダム建設により変わりゆく地元の吾妻溪谷の魅力を多くの人に知ってほしいと「吾妻溪谷見て歩き」（上毛新聞社）を出版されました。八ツ場ふるさと館などで購入できます。

緑の窓



竹に魅せられて

第5期生 井田 忠晴

十数年前より竹林の荒れた姿が気になり、仲間と整備する事になりました。まず手始めに、ヒノキ林に侵入した竹を切り山から運び出して切り揃え、ドラム缶で竹炭を作りました。失敗も重ねましたが面白かったです。

その後、竹籠を作ろうと思いましたが師匠がいませんでした。竹細工を長年されている人を紹介して頂き、今に至っています。自分の第2の人生が始まった様に思っています。

日本の真竹は世界で一番の竹だと思います。美しさと強さを持つ素材です。ところがプラスチックや安価な中国産の竹製品に席卷され、建築にも使われなくなり、現在の状況になりました。しかし最近になって行政や地域の方々が竹林整備に取り組み始めました。渋川市や高崎市吉井町奥平地区などです。

真竹は熱、酸、アルカリに強く、臭い移りしない為、日本料理の器や蕎麦ざるに利用されます。また竹炭は消臭や湿気取りに利用されます。しかし良い竹は良く手入れをした竹林でしか生まれません。

微力ながら国産資源の活用をライフワークとしていきます。



高崎市民展に出品



泡巢（卵塊）をつくるカエルたち

群馬県自然環境調査研究会会員 金井 賢一郎

アオガエルの仲間は県内で3種。モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエルである。この仲間は足の指先に吸盤を持ち、木や壁面にのぼることができる。また、佳い声で鳴く。ことにカジカガエルの声は美しいが、ここでとりあげる泡巢は作らないので除外して、モリアオガエルとシュレーゲルアオガエルについてだけ触れる。

さて、カエルの卵は水中で産まれるため、カラは持たない。その中でモリアオガエルは樹上に、シュレーゲルアオガエルは地中に穴を掘って産卵する。そこで乾燥を防ぐため卵のまわりに泡でカバーを作るわけである。産卵から時間がたつにつれ、かたまってくるから外敵から卵を守る意味もある。モリアオガエルは♂で体長5.5cmぐらい、♀は7cmほど。体色は緑で、斑紋のあるものがある。産卵期には沼、池などの上に張り出した木の枝にペアでのぼり、体液や水分を排出して足でかき回し、泡巢を作る。そしてその中に卵を産むのだが泡をかき混ぜているうち、複数の♂も混ざって来たりして集団で産卵作業をやることになる（図1）。だからリングぐらいの大きな白い塊が枝にぶら下がる。泡のなかで育ったオタマジャクシが泡巢の下部から穴をあけて落下するためには、特に樹上では湿り気の多い梅雨時期が最適である。これは珍しいと、各所で天然記念物に指定されたりもしている。

一方シュレーゲルアオガエルは、田んぼの畔や池の近くの土に穴を掘って産卵するので、1ペアの作業である。従って泡巢の大きさもモリアオガエルのより小さい（図2）。カエル自身も体長は♂で3.7cm、♀で5.5cmが平均である。

読者の中にはシュレーゲルアオガエルを外来種と思う方もおられるようだが、このカエルを研究したオランダの学者シュレーゲル氏の名前を付けたもので、日本固有種のカエルである。



図1. 樹上産卵のモリアオガエル塊には♀1匹と♂5匹がみえる。大きさは縦約10cm。ふつう夜行性のため昼間の産卵は珍しい。



図2. シュレーゲルアオガエルの卵塊
まわりの土を除いたら見えた。

<昆虫の話> 第10回 昆虫の利用① 食料として

第7期生 須藤 友治

昨年、国連食料農業機関（FAO）が人口増加に伴い、「昆虫食が人類の食に貢献する」との報告書を発表した。高タンパクでビタミンが豊富など栄養面で優れているうえ、飼育に手間がかからないといった点が評価され、国内でも昆虫食に関するセミナーなどが開催されている。専門家は「まずは虫が食料になることを知ってほしい」と話している。

かつての日本では、一般家庭でも昆虫が広く食用にされ、スズメバチやイナゴ、カイコ、カミキリムシ、セミ、ザザムシなどが昆虫食の対象とされてきた。特にイナゴは稲の害虫であると同時に、重要な食用昆虫であり貴重なタンパク源であった。

現代日本人の多くは日常的には昆虫食をしていないが、一部地域においては地方の食文化として現存しており、蜂の子（幼虫）やイナゴの缶詰をはじめ、カイコの蛹やザザムシなどの加工品が販売されている。

昆虫を食べる習慣は日本だけでなく、東南アジアや南北アメリカ、アフリカなど世界各地で見られる。世界で食用にされる昆虫の種類を細かく集計すると1,400種にもものぼるといわれる。中国ではカイコの蛹やコオロギが食べられ、オーストラリアでは蜜を含んだアリの胴体を珍味として味わっている。また、タイではタガメやゲンゴロウの揚げ物が普通に屋台で売られ、人々は何のてらいもなく食べている。

昆虫は食品にも用いられている。よく知られているのは、カイガラムシの一種から抽出される色素「コチニール」である。これは使用すると鮮やかな赤を醸しだし、赤みを持つ清涼飲料水や食品（菓子・ハム等）に利用されている。

（注）ザザムシとは川沿いの虫の意で、カワゲラやトビケラなどの幼虫の総称



蜂の子（クロスズメバチ）



コバネイナゴ

<協会の声> ぐんま緑のインタープリター協会との出会い

第12期生 矢本 洋

2014年5月で、群馬県に移り住み2年が経過しました。移り住んだ当時の私には、『群馬県を何も知らない』と言っても過言ではないくらいでした。そんな中で「自然の解説者養成講座」に出会いました。知的探究心溢れるカリキュラムは、群馬県を知る大きな窓口役になってくれました。そして毎回、魅力溢れる講師陣にドキドキ。なんとキャラの濃い人達なんだと、突っ込んで話を聞きたくなるほど。豊富な知識をお持ちの先生方は、実に天才肌が多いことこの上ないなあと感じました。また、自分自身の観光資源チョイスでは、訪れない場所や出逢えない人達に出会えたことに感謝します。

この「自然の解説者養成講座」の受講を通じて、私の知的好奇心は刺激されました。その結果、自分自身が住む“地域”への興味が湧き起こった訳です。一体、自分の住んでいる地域にはどんな歴史があり、どんな環境なのか？また、災害の歴史は？著名な人物は？美しい風景は？漠然と始めていた私のWebサイト『ゆけ！まえばし！！』の方向を決定付けてくれました。ここにもまた「ありがとう」です。

これからも群馬県を知るべく、いろいろなところに出かけて行きたいと思います。協会員になり1年目。仕事現役世代の34歳なので活動制限はあるとは思いますが、協会活動には出来る限り協力していきたいと思っています。



<協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
平成26年7月12日（土）	7/26、8/9、8/23、9/13、9/27 室沢交流の森整備	室沢交流の森
平成26年7月19日（土）	前橋市委託1 ネーチャーゲームとクラフト	おおさる山乃家
平成26年7月27日（日）	森の体験1 木工	あかぎ木の家
平成26年8月6日（水）	前橋市委託2 川のいきもの観察と水鉄砲作り	おおさる山乃家
平成26年8月10日（日）	森の体験2 「赤城の自然を楽しもう」	赤城少年自然の家
平成26年8月23日（土）	夏休みキッズフェスタ	前橋プラザ元気21
平成26年9月14日（日）	森の体験3 「榛名の自然を観察しよう」	榛名山
平成26年9月21日（日）	研修6 赤城シカ対策のアミ巻と自然観察	赤城山

<編集後記>

幸運を呼ぶ鳥として知られているツバメが、そよ風の中を気持ちよさそうに飛んできました。巣を作るべく忙しく、土、わら、水を口に含み、一日何百回も運び、一週間位で立派な巣が出来ました。そこで卵をうみ、オスとメスが協力して温め、二週間位で雛の誕生。餌の昆虫を運び、その後三週間ほどであつというまに飛び去って行きました。来年も戻ってくることを祈り見送りました。つがいの連携プレイに感動。年中の好季節の好シーンでした。吉田(卓)